

理研会報

発行
印刷 理研会事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

平成9年度 県教研 参加報告

四街道中学校 大坊 孝志

県教研では、昨年に引き続き、
I. よくわかり、生徒に楽しさと
意欲を持たせる指導はどうあるべ
きか。

II. 地域の自然を踏まえ、正しい
自然観を育てる理科指導はどうあ
るべきか。

をもとに十一支部よりレポートが
提案され、次の四つの討議の柱に
そって話し合いがなされた。

一、学習指導要領の問題点に
かかわること、及び自主的
な教育課程の編成のあり方

T・Tによる授業実践を通して
個に応じた適切な支援や評価を行
うことができたとの提案があった。
T・Tについては、助言者より三
十五人学級の実現が先かT・Tの
全教科での実施か、方向性を定め
る必要があるとの発言があった。

二、教材教具を利用した効果
的な指導のあり方

生徒が主体的に活動するための
コンピュータの利用した二力の合
力の作図についての提案があった。
コンピュータの利用に関しては本
当にそれが必要な領域なのか見極
める必要があるとの討議があった。

また、理科的な環境に触れさせ
る機会の拡充や教具をいつも活用
できるようにすることが大切であ
るとの意見が出された。

三、理科における環境教育の
あり方

三年間を見通して、環境教育を
各単元の中に効果的に位置づけ
いくという提案をもとに討議され
た。環境教育には「知る」「知ら
せる」「行動する」という三つの
形態があり「生き方を決定する」
ものであると助言者から発言があ
った。

四、身近な自然を生かした指
導のあり方

自然に恵まれた地域性を生かし
地域の動物の実態調査を通した実

践と学校地内の草花などを活用し
植物を自然から切り離さずに、自
然のなかにあった状態で捉え直す
ための試みが提案された。

環境教育に関しては、豊かな自
然をプラス思考で捉えていくこと
の必要性や今までの理科の授業に
「環境」という視点で自然や物を
見ていくことが大切であると意見
が出された。

五、生徒の意欲・関心を引き
出すための指導と評価のあ
り方

実験の少人数化・個別化を図っ
た電流の学習、仮説実験授業を軸
とし、人間のたまされやすさをも
とに「超常現象」を取り上げたも
の、そして、空き缶笛を通して音
の単元で、課題選択と屋台村方式
による発表の実践についての提案
がなされた。また、課題選択学習
については、他にもイオンや気体
の性質や生物の領域で提案があっ
た。

これらについては、「理科は一
体何を学習するものなのか」それ
を念頭に置き、限られた授業の中
で一時間一時間積み上げていくこ
との必要性について討議された。

助言者からは、今後の課題とし
て、理科離れが叫ばれる中、いか
に生徒の関心・意欲を高めていく
か。また、理科における基礎・基
本を明確におさえる必要があると
の意見が出された。

今回、県教研・全国教研と四街
道西中学校の佐久間先生と共に充
実した研究の機会を与えてくださ
った諸先生方と研究を支えてくだ
さった五部会の理科学研究部の先生
方に心から感謝いたします。また
資料につきましては、四街道中学
校で保管しておりますので、是非
ご活用ください。

小倉台小学校 和地 滋巳

第四十七次千葉県教育研究集会
の参加報告をさせていただきます。

理科教育の分科会では、小学校
中学校別にそれぞれの研究主題に
沿って、各支部からレポートが寄
せられ、討議がなされました。

小学校の研究主題は、
「一人ひとりを大切に、豊かな
心を育てる理科学習はどうあるべ
きか。」

です。この主題の元、さらに三つ
の討議の柱が立てられ、一本十五
分間の提案で、合計十二本のレポ
ートが討議の柱に沿って話し合わ
れました。

一つ目の討議の柱は、
「直接体験を取り入れた理科学習
のあり方」

で三本のレポートの報告がありま
した。

千葉支部からは、生活科とのつ
ながりも視野に入れた単元の系統
を考えた学習構成への取り組みと
きまわりを見つめあう学習につ

いての提案がありました。その中
で豊富な生活経験と記録の積み重
ねが新しいきまわりを見つめる原動
力になるという報告がされました。

船橋支部からは、直接体験を重
視した指導法のあり方として、六
年「物の燃え方と空気」の単元に
おける野菜や果物での炭作りの実
践報告がなされました。

印旛支部は、児童一人ひとりの
生物への興味・関心を高める指導
のあり方として、一人一実験、一
人一観察、一人一飼育への試みに
ついて提案しました。ペットボト
ルを利用した植物の栽培やメダカ
の飼育、いろいろな植物による水
の吸い上げ実験など各学年の実践
報告をしました。

二つ目の討議の柱は、
「主体的に取り組む理科学習のあ
り方」

で、四本のレポート報告がありま
した。

市川支部からは、自らの問題を
見つけ、主体的に解決していくこ
とのできる子どもを目指した実践
として、数多くの生き物を子ども
一人ひとりの願いや思いを大切に
しながら飼育していく「生き物広
場作り」が報告されました。

香取支部からは、子どもの意識
にそった理科学習の進め方の工夫
として、風船の重さをはっきりさ
せるために一人ひとりが考えて作
るてんびん作りの実践が報告され
ました。

安房支部からは、一斗缶を使っ

たダイナミックな燃焼実験と自分
たちが学習したことこのホームペー
ジ作りを通して主体性を持たせる
実践の報告がありました。

君津支部からは、一人ひとりが
十分に活動できる場を構成し、そ
れぞれの疑問を大切にして、実験
に取り組みさせていく、六年「水溶
液の性質」についての報告があり
ました。

三つ目の討議の柱は、
「子どもの興味・関心・意欲を高
める理科学習のあり方」

で、五本のレポートの報告があり
ました。

東総支部の一人ひとりの発想を
大切に生かした学習過程や学習形
態の工夫や山武支部の「メダカの
成長」の学習をきっかけとして、
自由研究に取り組ませていく支援
の工夫など子どもたちの意欲を高める
実践の報告がありました。

また、市原、夷隅、長生のそれ
ぞれの支部からは、地域の自然を
教材として取り上げた、環境学習
のあり方や自然体験ゲームなどの
実践の報告がありました。

県教研に参加した二日間、理科
教師として、いかなる教材を用意
し、いかなる支援をするかについ
ての皆さんの実践を見ることが
できました。ありがとうございました。

編集後期：発行が遅れてしま
いお詫びいたします。